

好調日野 チームけん引

昨年9月加入

自転車ロードのプロチーム「ヴェロリアン松山」（松山市）が設立2年目の今シーズン、好調な滑り出しを見せている。中心にいるのは、西条市出身の日野泰静（24）＝松山学院高出。競輪選手を志していたがロードに転向し、2月下旬のレースでチーム初の表彰台を獲得。ヴェロリアンの歴史をつくる1勝に近づいている。

今季は2月にスターリアンにとつてはツアト。3戦目となる志布1初の表彰台。「かな志クリテリウム（2月）り自信になった。優勝23日・鹿児島県）で日も狙える実感がある。野は最終盤のスプリントと手心えを強調する。ト争いに加わり、3位。日野は昨年終盤の2に食い込んだ。ヴェロ024年9月に加入し

2月のレース 初表彰台

た。高校卒業からは6年が過ぎていた。その間は、子どもの頃から夢だった競輪選手を目指し、短距離に特化した練習を重ねていたという。しかし壁は厚かった。養成所には受験回数制限がある。24年1月に5度目の落選が分かった時、競輪への道が閉ざされた。「結局、自分に短距離は合っていないかった。ただ、そのまま自転車から離れるのも後味が悪かった」。松山学院高では数々のタイトルを獲得し、高校自転車界で圧倒的強さを誇る現在の礎を築いた。

夢に届かないまま自転車を降りるのか。複雑な思いに揺れた。そこに偶然、ヴェロリアンの誕生が重なった。高校での日野はアジア選手権を制するなど、終盤のスプリント力を武器にロードで突出した成績を挙げてきた。「競輪が駄目になった時、松山にチームが生まれた。運命的なものを感じた」。1カ月熟考し、ヴェロリアンへ入団を直訴した。4月には知人のついで、自転車大国のベルギーに渡った。勘を戻すため週々4回、レースに出走。数カ月間にわたる修業を積んだ。昨季は1戦の出走にとどまったが、冬の間、清水祐輔監督が組んだ世界基準のハードな練習をこなし、ロード向けに体をつくり直した。その成果が今季の好調に表れている。国内ロード界で再び存在感を放つ日野は、目線を表彰台の頂点に向ける。今ツアーで主役を張る他チームのトップ選手も、高校時代は何度も倒してきた相手だ。「強くなっている実感がある。勝負勘も戻り、ロード適性にもまた自信が出てきた。結果で喜ばせたい人がたくさんいる。優勝しないと満足はしない」。遅れてきた大器が、新興チームを引っ張っている。（柳生秀人）



①チームで初めて表彰台に立ち、初勝利に近づいたヴェロリアン松山の日野泰静。②3月中旬、松山市で志布志クリテリウムで3位に入った日野泰静。③2月下旬、鹿児島県志布志市（Photo: M. SHIMIZU）